

国語科

1 カリキュラム作成のためのコンセプト

教科の本質

現在の小・中学校における国語科の課題

〈指導内容・方法・評価等の課題〉

〈実態からの課題〉

- 言語の教育として、国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成する。
- 全ての教科を支える言語に関する学習を行う。
- 社会生活に必要なコミュニケーション能力の基盤を育成する。
- 文化の中核であり、基盤となる。

- 指導内容が抽象的でどのような力がついたか見えにくいこと。
- 指導系統が曖昧で、同じことが繰り返し指導されること。
- 基礎的・基本的事項の指導と言語活動の成立を目指す指導が混同していること。
- 表現（話すこと・書くこと）の指導の充実と評価方法を確立すること。
- 「読むこと」特に文学教材偏重の傾向があること。
- 「読むこと」の指導と読書指導の関係の明確化。

- 何を学んだか、どんな力がついたか見えにくく、勉強の仕方がわからない。
- 読書経験など個人の生活体験による学力差が大きい。
- 社会生活に必要な言語能力（漢字の読み書き・正しい言葉遣いなど）が十分に身に付いていない。

課題を克服するための基本的な考え方

- ◇発達段階に応じた能力形成を目指す。1～4年生は、「読むこと」の指導に重点をおき情緒力・想像力（感じる力・想像する力）の育成を目指し、5～9年生は、「書くこと」の指導に重点をおき論理的思考力（考える力）の育成を図る。
- ◇読書指導を9年間見通して、系統的に行う。学年ごとに課題図書を設定し、読書の量と質の拡充を行い、読書の習慣の定着を目指す。
- ◇「言語事項」では、国語科の基礎・基本の知識を徹底して身に付けさせ、語彙力の育成を図る。漢字については、常用漢字（1,945字）の読みと学年配当漢字（1,006字）に加えて、300字程度が書けるようになることを目指す。
- ◇単元の指導事項および学習の目的を具体的に明確にする。→単元でどのような言語の力がついたのか学習者が自覚できるようにする。

小中一貫教育のコンセプトから考える国語科のねらいと育てたい力

- 【言語事項】 国語科学習の基礎・基本として確実に身に付けるべき知識として系統的に指導する。学年ごとに身に付けるべき語彙を明らかにし、繰り返し練習することで確実な定着を目指す。
- 【聞くこと】
 - ①話の要旨を的確に把握して、その内容を理解できる。
 - ②話し手の気持ちや主張だけでなく、言外の思いや真意を感じ取ることができる。
 - ③場面に応じて最後まで集中して、聞くことができる。
- 【話すこと】
 - ①自分の考えを明確にして、説得力を持って論理的に伝えることができる。
 - ②相手や場面・目的に応じ、伝えるべき内容を分かりやすく話すことができる。
 - ③発声・発音・態度などを相手や場面に応じて、コントロールできる。
- 【読むこと】
 - ①論理的・説明的文章において、的確に論理を読み取ることができる。
 - ②文学的な文章において、気持ちや感情を十分に読み取ることができる。
 - ③古典（古文、漢文）の文章に親しむことができる。
- 【書くこと】
 - ①自分の考えや意見などを正確に伝える論理的文章を書くことができる。
 - ②伝統的な形式や書式に従った手紙や通信などの文章を書くことができる。
 - ③様々な情報を収集して、それに基づいて明確な文章を書くことができる。
- 【読書活動】 経験を広め、知識や情報を求め、また、楽しみを得、教養を高めるため、全学年を通じて、読書の時間を設定する。発達段階に応じて、読み聞かせ、暗唱、朗読、ブックトークなどの諸活動を通して、読み物による人間性の開発、文学鑑賞による豊かな人間性の形成を目指す。

〈発達のとまりによる主な指導内容・指導形態〉

1年生～4年生				5年生～7年生			8年生・9年生		
・ 配当漢字 835 字を読める。 ・ 配当漢字 835 字を確実に書ける。				・ 配当漢字 171 字＋常用漢字 300 字程度が読める。 ・ 配当漢字 171 字＋常用漢字 300 字程度が書ける。			残りの常用漢字 639 字が読める		
親しむ読書活動→幅広い読書活動				深める読書活動					
情緒力・想像力の育成（読むこと） 基礎・基本							応用・発展		
論理的思考力の育成（書くこと）							社会生活に役立つ総合的国語力		
1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	学年 1単位 45分
272	280	235	235	180	175	156	117	117	現学習指導要領
284	290	285	285	200	195	170	130	130	小中一貫教育

2 漢字配当

現学習指導要領			小中一貫教育				
学 年	読 み	書 き	学 年	読 み	増 減	書 き	増 減
小1	〈 80〉 1年 80 字		1年	〈 80〉 1年 80 字	0	〈 80〉 1年 80 字	+80
小2	〈 240〉 2年 160 字	〈 80〉 1年 80 字	2年	〈 240〉 2年 160 字	0	〈 240〉 2年 160 字	+80
小3	〈 440〉 3年 200 字	〈 240〉 2年 160 字	3年	〈 540〉 3年 200 字／4年 85 字	+85	〈 540〉 3年 200 字／4年 85 字	+125
小4	〈 640〉 4年 200 字	〈 440〉 3年 200 字	4年	〈 835〉 4年 115 字／5年 185 字	+100	〈 835〉 4年 115 字／5年 185 字	+100
小5	〈 825〉 5年 185 字	〈 640〉 4年 200 字	5年	〈1,006〉 6年 181 字	-4	〈1,006〉 6年 181 字	-19
小6	〈1,006〉 6年 181 字	〈 825〉 5年 185 字	6年	〈1,206〉 200 字	+19	〈1,206〉 200 字	+15
中1	〈1,306〉 250～300 字	〈 900〉 75 字	7年	〈1,306〉 100 字	-200	〈1,306〉 100 字	+25
中2	〈1,656〉 300～350 字	〈 950〉 50 字	8年	〈1,656〉 350 字	0		-50
中3	〈1,945〉 289～389 字	〈1,006〉 56 字	9年	〈1,945〉 289 字	0		-56
	1,945	1,006		1,945		1,306	

※小学校学年別漢字配当：総数 1,006 字／常用漢字：総数 1,945 字

※〈 〉は累積学習漢字総数

3 目標および内容

	1・2年生	3・4年生	5・6・7年生	8・9年生
指導事項	ア 知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話すこと。 *時間の順序に気を付けて話すことができる。 *短く区切って話すことができる。 *相手を見ながら恥ずかしがらずに話すことができる。	ア 伝えたい事を選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、話のつながりを考えながら言葉遣いに気を付けて話すこと。 *身近なできごとや調べたこと、考えたことを相手やその場の状況に応じて丁寧な言葉で説明したり、報告したりすることができる。 *話の中心がわかるように大事なことを落とさないで、まとまりごとに話すことができる。 *資料を用いたり、SWIHを入れて具体的に話すことができる。	ア 自分の考えや気持ち、意図を相手に理解してもらえるようにふさわしい話題を選び出し、話の組み立てを工夫したりしながら目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 *クラスや学校の問題点、社会の出来事などから話題を見つけ、自分の考えや気持ちを発表することができる。 *話す対象や場所を考えて、適切な話し方を工夫することができる。 *自分の立場を明らかにし、その根拠や具体例を挙げて詳しく話すことができる。 *メモを見ながら話すことができる。 *必要な資料を提示したり、抑揚を付けたりして自分の考えを効果的に話すことができる。	ア 広い範囲から話題を求めて、話すこと。 *新聞や本、テレビやインターネットなどから情報を収集し、効果的に発表したり、自分の考えを述べるのに役立てたりすることができる。 *その場にふさわしい話題を選び、言葉遣いに気を付け、適切な語句や言い回しを工夫して、効果的に話すことができる。 *論理的な構成や展開に気を付けて、説得力のある話し方ができる。
聞く	イ 大事なことを落とさないようにしながら興味をもって聞くこと。 *話を最後まで聞くことができる。 *話の順序に気を付けて聞くことができる。 *話し手の一番言いたいことを考えながら聞くことができる。	イ 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめること。 *話の中心やまとまりに気を付けて、要点などをメモに取りながら聞くことができる。 *お互いの考えの相違点や共通点を聞き分け、自分の感想をまとめることができる。	イ 全体と部分、事実と意見との関係や話し手の意図を考えながら話の内容を聞き取ること。 *目的意識をもって、相手の考えを聞くことができる。 *話の中心と付加的な部分、事実と意見を正確に聞き分けることができる。 *話題の移り変わりや論理の流れをとらえ、要点をまとめることができる。	イ 話し手の意図をとらえながら、自分のものの見方や考え方を深めるために聞くこと。 *話し手の意図や考えとその根拠を聞き取り、論点や相違点をつかむことができる。 *抽象的な概念や多様な語句を聞き取り、理解しながら聞くことができる。 *話題について様々な意見や考えを聞き、自分の考えをまとめることができる。

	1・2年生	3・4年生	5・6・7年生	8・9年生
指導事項 話し合う	ウ 身近な事柄について、話題に沿って話し合うこと。 *学校での遊びや家庭での様子、動植物や身近に起こった出来事など経験したことから話材を集め、話し合うことができる。 *わからないことを尋ねたり、応答したりすることができる。	ウ 互いの考えの相違や共通点を考えながら、自分の立場を明確にして、進んで話し合うこと。 *身近な出来事や調べたこと、学級のことを発表したり、疑問や意見を互いに応答し合ったりすることができる。 *話し合いを通して、自分の意見を強めたり、間違いに気付いたりすることができる。	ウ 話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、それぞれの発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。 *学校生活や社会の出来事を話し合ったり、調べた内容や伝えたいことなどを発表したりすることができる。 *自分の立場や意図をはっきりさせながら、話し合いの目的から外れないように話題の方向に沿って話し合うことができる。 *問題点を整理しながら相手の話を注意深く聞き、自分の考えをまとめることができる。	ウ 話し合いが目的に沿って効果的に展開するように話したり聞き分けたりして、自分の考えを深めること。 *社会の出来事や問題点について調べたことなどを話し合い、自分の考えを深めることができる。 *自分が納得するまで重ねて質問したり、相手が納得するまで意見を述べたりすることができる。 *相手の立場や意見を尊重しながら話し合うことができる。

4 「読むこと」

	1・2年生	3・4年生	5・6・7年生	8・9年生
読書 進んで読む	ア 易しい読み物に興味をもち、読むこと。 *気に入った絵本や易しい本を楽ししく読むこと。	ア いろいろな読み物に興味をもち、読むこと。 *さまざまな分野の本にふれ、幅広く読む。	ア 自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な図書資料を選んで読むこと。 *図書館やインターネットでの関連資料の調べ方が分かる。	
内容把握 要約 主題や要旨 正しく読む	イ 時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。 *時間や事柄の順序に着目し、文章の内容の大体をつかむ。	イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。 *中心となる語や文をとらえたり、段落の関係を押さえたりする。 *意味のまとまりごとに小見出しを付けることができる。 *段落ごとの要点をとらえ、文章の大筋をつかむ。 ウ 文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解すること。 *国語辞典の使い方が分かる。文脈上の意味を理解する。	イ 文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約する。 *調べ学習において、自分の調べた内容を短くまとめることができる。 *要約するための手順のいくつかを理解し、実際に要約できる。(段落ごとの要約・キーワード、キーセンテンスへの注目等) ウ 文章の展開を確かめながら主題を考えたり、要旨をとらえたりすること。 *書かれている内容について、疑問や共感をもちながら読み、主題や要旨を読み取ることができる。	イ 聞き手の論理や展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てること。 *論説文や表論文の内容を、初読で理解できる。 *筆者の個性を理解し、自分の表現にも取り入れることができる。 ウ 表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。 *口語体や文語体、常態と敬体、和文調と漢文調、簡素な述べ方と丁寧な述べ方、断定的な言い方と婉曲な言い方等に表れる特徴に気付く。 *文章中の表現技法が理解できる。 *様々な文章類型や、叙述の仕方が理解できる。 *文章の種類によって、得意な表現内容があることが分かる。

	1・2年生	3・4年生	5・6・7年生	8・9年生
読み取り 想像して 読む	ウ 場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと。 *だれが何をしているか、誰が何と言ったか分かる。 *文章を読んで、自由に想像する。	エ 場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むこと。 *場面の变化や情景を表している言葉に着目し、叙述を基に想像を広げる。	エ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。 *比喩や象徴表現から、情景や心情が想像できる。	
構成・展開 表現 理解して 読む		オ 目的に応じて内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意しながら文章を読むこと。 *内容の中心や段落相互の関係を考えたりしながら読む。	オ 文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てること。 *説明的文章を、文章の書き出し、接続詞の使い方、例の挙げ方等に注意しながら読む。 *課題解決のための筋道（主題や要旨を支える根拠の積み上げ）が理解できる。	
音読・朗読 声に出して 読む	エ 語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと。 *一語一語、一文一文をはっきりした発音で読むことができる。 *ひとまとまりの語や文として意味が通じるように読むことができる。	カ 書かれている内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読むこと。 *聞き手に中心や場面の様子が伝わるように、地の文とそれぞれの会話の違いを音読できる。	カ 古文と漢文のもつ独特のリズムに慣れるために、声を出して読むこと。 *有名な古典作品に慣れ親しむ。	エ 音読・朗読のもつリズムに気づき、味わって読むこと。 *郡読や朗読劇をグループで楽しむ。
ものの 見方 感じ方・ 考え方 考えながら 読む		キ 読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。 *自分の考えがどのような叙述を基にしているかを自覚しながら友達と交流する。	キ 文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広くすること。 *教科書の文章を読み、その内容に新たな発見や価値を見だし、さらに関連資料を読もうとする態度をもつ。	オ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。 *現代社会の諸問題、歴史的事実、人間の真実等を扱った骨太の文章（例えば「故郷」）を読み解き、自分の意見をもつことができる。

	1・2年生	3・4年生	5・6・7年生	8・9年生
情報活用 情報を得るために読む			ク 様々な種類の文章から必要な情報を集めるための読み方を身に付けること。 *必要に応じて、大切な部分に印を付けたり、抜き書きしたりしながら読むことができる。 *複数の文章から、関連する内容を読み取ることができる。 *インターネット等で検索した資料をざっと読んで、自分に必要な情報を見つけることができる。	カ 目的をもって様々な文章を読み、必要な情報を集めて自分の表現に役立てること。 *情報の価値や真偽を読み分けることができる。 *情報を集め読み取る自分なりの方法がある。

5 「書くこと」の指導事項および能力の具体的要素

	1・2年生	3・4年生	5・6・7年生	8・9年生
発想や認識	ア 相手や目的を考えながら書くこと。 *家族や先生などの身近な人の中から相手を決めて書く。 *相手や目的によって表現や表記を選んで書く。 *何のために書くのかを意識する。	ア 相手や目的に応じて適切に書くこと。 *親戚や他校の児童など離れている相手を想定して書く。 *相手の立場や書く目的を考えて表現や表記を選んで書く。 *身近な生活の中から課題を見つける。 *調べたことや事実について感想や意見を書く。	ア 身近な生活や学習の中から課題を見つけ材料を集め、自分の考えをまとめること。 *身近な生活について問題意識を持つ。 *自分の考えや意見を明らかにする。 *書くことの目的や意図を明らかにして活動する。	ア 広い範囲から課題を見つけ、必要な材料を集め、自分のものの見方や考え方を深めるとともに、自分の立場および伝えたい事実や事柄を明確にすること。 *社会生活や新聞記事等について問題意識をもつこと。 *社会生活などに取材し、事実や課題に対する自分の意見を深める。
事柄や意見			イ 伝えたい事実や事柄、課題および自分の考えや気持ちを明確にすること。 *自分の意見を支える事実、事象・根拠を複数用意する。 *調べたこと、資料から読み取れること等の事実を整理する。 *自分の立場を明らかにして、事実や事柄に対する考えや気持ちを固める。	

	1・2年生	3・4年生	5・6・7年生	8・9年生
取材・選材	イ 書こうとする題材に必要な事柄を集めること。 *身の回りから知らせたい事柄を見つける。 *テーマにあった内容を見つける。 *体験したことなど具体的な事柄を記述に生かす。	イ 書く必要のある事柄を収集したり選択したりすること。 *目的にたらし合わせて必要な事柄を選ぶ。 *身近な生活や学習の中から情報を収集する。 *様々な方法で書く事柄を集める。(インタビュー、アンケート等)	ウ 自分の考えや気持ちを的確に表すために、適切な材料を選び、文章全体の組み立てを考えること。 *取材した材料を理解し、必要のある事柄を取捨選択し整理すること。 *様々な文章構成を学び、伝えたい内容によって選ぶこと。(起承転結、頭括型、尾括型、双括型等の形式) *問題提議、事実、意見、結論等の段落相互の関係を考える。 *必要に応じて図表、写真等の資料を利用する。	イ 文章の形態に応じて適切な構成を工夫すること。 *考えや気持ちを的確に表すために、必要な情報を社会生活や図書、情報機器から収集する。 *相手や目的に合った材料・文章構成を選ぶ。
構成	ウ 自分の考えが明確になるように、簡単な組み立てを考えること。 *文章の初めと終わりを意識して書く。 *一つの事柄について、「初め・中・終わり」の構成を意識して書く。 *事柄のまとまりごとに段落を設ける。	ウ 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えること。 *伝えることを中心点をはっきりさせて、「書き出し・中心・結び」の構成を考えて書く。 *事象と考えを分けて書くこと。 *事柄の軽重によって配分を考える。		
記述	エ 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文の続き方に注意して書くこと。 *時間の順序、行動の順序に気を付けて書く。 *「はじめに・つぎに・さいごに」を使って書く。 *文の終わりに「。」をつける。 *400字程度の生活文を書く。 *縦書き原稿用紙の使い方を知る。	エ 書こうとする事柄の中心を明確にしながら、段落と段落の続き方に注意して書くこと。 *手紙文の形式にそって、書く。 *事柄ごとの区切りを意識し、段落の続き方を考えて書く。 *「さらに、また、しかし、ところが、このように」等を使って書く。 *400字程度の説明的な文章を書く。 *横書き原稿用紙の使い方を知る。	エ 事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりすること。 *考えや気持ちと根拠となる事実や事柄を関連付けて書く。 *自分の意見を支える事実や事柄を複数利用して書く。 *相手を意識して書き出しや文末表現を工夫する。 *伝えたいことが分かりやすくなるように詳しく書く部分と簡潔に書く部分を考える。 *相手や目的に応じて詳しさや分量を調整する。 *限られた字数の用紙に紙面構成を工夫して書く。	ウ 自分の意見が相手に効果的に伝わるように根拠を明らかにし、論理の展開を工夫し、説得力のある文章を書くこと。 *論理の流れを確かめながら書く。 *反論を予想して、対応を組み込んだり、意見を強化する根拠を示したりする。 *段落の関係や論理の展開を振り返り、説得力のある文章にする。

	1・2年生	3・4年生	5・6・7年生	8・9年生
推薦	オ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに注意すること。 *書いた文章を声に出して読み返す。 *表記の間違いに気付く。 *自分の文章のよさに気付く。	オ 文章のよいところを見つけたり、間違いなどを正したりすること。 *相手や目的に合った内容になっているか読み返す。 *表記や表現の間違いを直す。 *自分や友だちの文章のよさに気付く。	オ 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。 *表記や表現の間違いを直し、読みやすく分かりやすい文章にする。 *相手や目的に合った表現になっているか読み返す。 *伝えたいことが十分に表現されているか振り返る。	
評価・批評			カ 書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の集め方などについて自分の表現の参考にする。 *文章を読み合って、感想や意見を交流する。 *選材、構成、記述のよさに気付き、自分の表現の参考にする。	工 書いた文章を互に読み合い、論理の展開の仕方や材料の活用仕方などについて自分の表現に役立てること。 *文章を読み合って、自分の意見や考えを伝える。 *選材、構成、記述のよさに気付き、自分の表現に生かす。

6 言語事項

	音 声	文 字	表 記	語句・語彙	言葉遣い	文法（単語、文節、文、段落、文章）	書 写
1・2年生	○正しい口形で話すことができる。 ○はっきりとした発音で話すことができる。	○平仮名および片仮名を読み、書くことができる。 ○片仮名で書く語を文や文章の中で使うことができる。 ○2年生までに配当されている漢字を読み書くことができる。	○長音、拗音、促音撥音などの表記ができる。 ○助詞「は」「へ」「を」を正しく表記することができる。 ○句読点を正しく打つことができる。 ○「」を文章の中で使うことができる。	・いろいろな言葉集めをすることができる。 （花、野菜、くだもの、魚、虫、動物など） ・順序を表す言葉を理解し、使うことができる。	○丁寧な言葉と普通の言葉の違いを理解して話すことができる。 ○敬体で書かれた文章に慣れることができる。	○文中の主語、述語が理解できる。	○正しい姿勢と用具の持ち方を身につけることができる。 ○点画の長短、接し方、交わり方など筆順にそって、文字を正しく書くことができる。

	音 声	文 字	表 記	語句・語彙	言葉遣い	文法（単語、文節、文、段落、文章）	書 写
3・4年生	○適切な音量で話すことができる。 ○適切な速さで話すことができる。	○4年生までに配当されている漢字を読み書くことができる。 ○漢字の部首について理解し、覚えることができる。 ○ローマ字を読み、書くことができる。	○送り仮名や活用について意識しながら書くことができる。 ○句読点を適切に打つことができる。 ○必要な箇所で行改行して書くことができる。	・表現および理解の語彙を増やすことができる。 ○辞書の使い方、実際に使うことができる。	○相手や状況に応じて、丁寧な言葉で話すことができる。 ○敬体と常体の違いを意識しながら書くことができる。	○文中の修飾語、被修飾語の関係が理解できる。 ○文章全体における段落の役割が理解できる。 ○文と文をつなぐ接続語の働きが理解できる。 ○指示語の働きが理解できる。	○文字の組み立てに注意し、形を整えて書くことができる。 ○文字の大きさ、配列に注意して書くことができる。 ○毛筆で字形を整えて書くことができる。
5・6・7年生	○適切な音量・速さで話すことができる。 ○言葉の調子や間の取り方を工夫して話すことができる。	・だいたいの常用漢字を読むことができる。 ・学年別配当漢字を書くことができる。 ○片仮名および漢字の由来、特質などについて理解することができる。	○正しい送り仮名・仮名遣いで書くことができる。	○語句の類別に関する基礎知識（自立語・付属語、用語、体言）を理解し、覚えることができる。 ○語句の構成、由来について、基礎的な事柄を理解し、覚えることができる。 ○辞書を利用する習慣を身につけることができる。 ○多義的な語句の意味が理解できる。	・日常的な敬語を使って話したり、書いたりすることができる。 ○共通語と方言の違いを理解し、必要に応じて共通語で話すことができる。 ○話し言葉と書き言葉の違いが理解できる。	○文と文の接続関係について理解することができる。 ○文章の中の段落の役割が理解できる。 ○指示語、接続語の働きが理解できる。 ○単語の類別ができる。 〔自立語、用語（動詞・形容詞・形容動詞）体言（名詞・代名詞・連体詞・副詞）〕 〔付属語（助詞・助動詞）〕 ・単語の活用ができる。 ・助詞、助動詞の役割と使い方が理解できる。	○文字の形、大きさ、配列などを理解して、読みやすく書くことができる。 ○毛筆をして、形を整え、字配りよく書くことができる。 ○楷書と行書の基礎を身につけることができる。
8・9年生	○音声の仕組みや働きについて理解できる。						○目的や必要に応じて、調和よく、読みやすく、速く書くことができる。

7 時数配当 読書指導計画

	現 行 学 習 指 導 要 領						小 中 一 貫 校 配 当 予 定 時 数					
	総授業数	話すこと・聞くこと	書くこと	書くこと	読むこと・その他 (言語事項)	増 加	総授業数	話すこと・聞くこと	書くこと	書くこと	読むこと・その他 (言語事項)	読むこと・その他 (読書の時間の内数)
小1	272	30	90	—	152	12	284	30	90	—	164	(32)
小2	280	30	90	—	160	10	290	30	90	—	170	(34)
小3	235	30	85	30	90	50	285	30	85	30	140	(28)
小4	235	30	85	30	90	50	285	30	85	30	140	(28)
小5	180	25	55	30	70	20	200	25	55	30	90	(9)
小6	175	25	55	30	65	20	195	25	55	30	85	(9)
中1 7年	156	16～32	32～48	32	44～76	14	170	24	40	32	74	(7)
中2 8年	117	12～24	24～36	12	45～69	13	130	18	30	12	70	(7)
中3 9年	117	12～24	24～36	12	45～69	13	130	18	30	12	69	(7)

※現行と小中一貫教育の時数を比較しやすくするため、現行についても中学校は、一単位時間を 45 分で表示している。

※一貫教育の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の波線領域は、中間の時数を実施すると仮定する。

※一貫教育の時数増加分は、読むこと・その他（言語事項）に割り振ることとする。

※特設単元の読書指導は、各学年の読むこと・その他の時間のうち、1～4 年生を 10 分の 2 時間、5～9 年生を 10 分の 1 時間とする。

小中一貫教育では、経験を広め、知識や情報を求め、また、楽しみを得、教養を高めるため、全学年を通じて、読書の時間を設定している。発達段階に応じて、読み聞かせ、暗唱、朗読、ブックトークなどの諸活動を通して、読み物による人間性の開発、文学鑑賞による豊かな人間性の形成を目指す。

〈指導計画作成方針〉

- ・1～4 年生について、「読み聞かせ」を中心にした読書活動そのものを年間計画に位置づけ、授業時間内に体験させることで、読書に対する動機付けを十分に行う。
- ・5～9 年生については、授業の中で体験的な読書活動を実際に行うのではなく、第一に「朝の読書活動」のためのブックリストを作成したり、読書アニメーションを実施したり、小集団でのストーリーテリングを計画したりなど、読書活動の推進を動機付ける間接的な指導を行う。第二に「調べ学習」のための読書指導という観点から、情報の効果的な検索方法を学んだり、情報を吟味したりする情報活用能力の育成を図る取り立て指導を行う。
- ・読書指導は、上記特設単元の他に、「読むこと」の領域の指導や他教科・他領域と関連させ「調べ学習」を計画的に設定するなど、実践的な指導を行う。

